**主催：地球救出アクション97、ヒバク反対キャンペーン**

**「放射線副読本」撤回、関西と関東の討論・交流会**

**1月11日(土)　13：30～17：00**

**大阪市総合生涯学習センター第4研修室(梅田駅前第2ビル5F)**

**報告：放射線副読本内容の批判(原子力教育を考える会、関東より)**

**運動の現状と今後の進め方(地球救出アクション97)**

**討論と交流：こちらに重点**



8月29日の文科省交渉の文科省回答

＊100ｍSvの被ばくの危険性を教えない等、内容がひどい、改めよとの追及に対して、

「専門家の意見を聞いているので、間違いはない」

＊小学1年生には読めないし、予算の無駄遣いではないかの追及に、

「家に持ち帰らせて、家族で話し合うよう指導するので

無駄遣いではない」

　再改定版「放射線副読本」は、2018年10月に中学、高校に、12月に小学校に、全生徒数が送り付けられました。今年度も2年目として、小中高の1年生全員分が送り付けられることになっています。

2011年、福島原発事故のすぐ後に小中高生だけでなく公民館などにも配られた初版は事故に触れず、放射線の被害は大したことなく放射線は有用だと主張するものであったため、反対運動が大きく行われました。これは民主党政権によって不適切な予算の執行であるとされ、2014年に改訂されました。

ここには事故の被害については書かれましたが、放射線の危険性については100mSv 以下は被害がない等、一部専門家の意見に基づく「国の統一見解」が主張されました。

**「福島事故被害者切り捨て、原発推進」の**

**世論を作るため、学校を使う再改定**

　福島事故の被害はもはや終息した、避難は終わらせる。被害は「風評」であり、「風評払拭」とは事故の放射線は大したことないと国民に思わせることであり、その目玉が「放射線副読本」である、これが政府の方針と考えられます。国会で何度も表明されました。

次に副読本の「章立て問題」、つまり、第1章に原発事故ではなく、放射線の(危険でなく有用であるという)知識を書けという追及が原発推進議員によって国会でしつこく行われました。

　放射線副読本は復興予算で作られました。復興予算は、避難者の支援などに優先して使うべきです。そして、世論操作に学校を使ってはなりません。

　　私たちは2018年12月から、撤回の署名運動を始め、8月に1回目の提出と文科省交渉を行いました。全国で様々な反対運動が行われています。

　福島事故被害者切り捨てに反対し、放射線の危険性を知らせ、学校教育を政府が世論操作に利用することに反対する運動として広げたいと考えています。

　関東から、長く活動を行っている方々においでいただき、交流を行いたいと思います。

連絡：072-336-7201　稲岡